

MOTOR SPORTS REPORT

世界ラリー選手権フィンランド/WRC (World Rally Championship) Rally Finland
K's FACTORY のトヨタ・ヴィッツに LED バーライトを供給！

日本のプライベートチームが WRC 屈指の高速ラリーに参戦



セレモニアルフィニッシュの Dr.伊豆野選手、Co-Dr.依田選手

■概要/Outline

開催日：2016年7月26日～31日

開催地：フィンランド・ユヴァスキュラ地方

参戦マシン：TOYOTA YARIS (Vitz RS・NCP131)

参戦クラス：RC4 (1,400～1,600cc Gr.A)

2016年のWRC(世界ラリー選手権)第8戦「ラリー・フィンランド」にPIAAがサポートする日本のチーム「K's FACTORY」がエントリー。LED製バーライトを装着したグループA仕様のトヨタ・ヴィッツで伝統の高速グラベルラリーにチャレンジした。

同チームは資金力が限られたプライベートチームながら、社員ドライバーの伊豆野康平選手がコ・ドライバーの依田統選手とともに安定した走りを披露。レグ3でスピンを喫し、リア周りを破損するものの、脱落者が続出する過酷なサバイバルラリーを走破し、総合49位、RC4クラス9位で完走を果たした。

■ラリー・フィンランド/About Rally Finland

1951年に「1000湖ラリー」としてスタートしたグラベルイベントで、1959年にヨーロッパラリー選手権の一戦として開催されるほか、1973年よりWRCに昇格。以来、WRCの名物イベントとして定着している。

ホストタウンはフィンランド中部の学園都市、ユヴァスキュラで、その周辺の山岳エリアにグラベルステージを設定。いずれも高速コーナーが多く、平均速度は 135km/h、最高速度は 200km/h で、“フィンランドグランプリ” の俗称を持つように同イベントはシリーズ屈指のハイスピードラリーだ。

スキャンジナビアンが得意とするイベントとして知られるが、近年は北欧以外のドライバーも同イベントで躍進。毎年 7 月末にサマーブレイク後の緒戦として開催されていることから、シリーズ後半を占う一戦として常に激しいバトルが展開されている。



昼間でも林道エリアは薄暗く LED ランプが効果を発揮

■K' s FACTORY / About K' s FACTORY

K' s FACTORY は長野県に拠点を置くメンテナンスガレージで、国内のラリー競技に参戦するほか、同ガレージが運営するラリーチーム「K' s World Rally Team」は WRC や APRC (アジアパフィックラリー選手権) など国際ラリーにもチャレンジ。マシンの開発から海外へのロジスティック、現地でのサービスまでカバーしている。

主力モデルはグループ A 仕様のトヨタ・ヴィッツで、同ガレージのスタッフとしても活動している伊豆野選手がドライビングを担当。2009 年にラリー競技を始めた伊豆野選手は 2010 年の地区戦を経て、2011 年よりニュージーランドの地方選手権で海外ラリー活動を開始。その後も伊豆野選手は 2012 年に WRC のラリー・ニュージーランドと APRC のラリー北海道、2013 年にスコットランド選手権、2014 年に APRC のラリー北海道およびラリー・マレーシアに参戦するなど、年に 1 回のペースで海外ラリーに遠征している。

2015 年はトヨタ GAZOO Racing ラリーチャレンジに参戦するほか、WRC のラリーGB に遠征。まさに鈴木一也代表が率いる K' s FACTORY および社員ドライバーの伊豆野選手は国内外で積極的にラリー活動を行っているのである。



フィンランドの美しい景色を走る Vitz



K' s Factory 鈴木代表と伊豆野選手

■ラリーレポート/Rally Report

1000 湖ラリーと呼ばれていた時代から WRC 屈指のハイピードラリーとして定着しているラリー・フィンランドが 7 月 28 日~31 日、フィンランド中部の学園都市、ユヴァスキラで開催。PIAA がサポートする日本のラリーチーム、K' s FACTORY も同イベントにチャレンジした。

ドライバーは同チームのスタッフである伊豆野選手、コ・ドライバーは依田選手、マシンは PIAA の LED バーライトを装着したグループ A 仕様車のトヨタ・ヴィッツといったように、まさにオールジャパンの体制でフィンランドに遠征。同ラリーへの参戦はチーム、ドライバーともに初めてのチャレンジとなるものの、「日本のラリーファンにとって、ラリー・フィンランドは憧れのイベントなので、いつかは参戦したいと思っていました。さすがにいきなり参戦するのは難しいので去年はレッキに参加してペースノートを作りました」と伊豆野選手が語るように十分に準備を行ったうえで、高速グラベル戦にチャレンジしたのである。

今年のラリー・フィンランドも例年どおり、28 日の木曜日の夕刻、ユヴァスキラの市街地に設定されたスーパーSS で幕を開けた。ゼッケンのリバーズ順で出走したことから、先頭走者となった K' s FACTORY の伊豆野選手はヴィッツを武器にリズムカルな走りを披露している。

しかし、翌 29 日より山岳エリアで本格的なラリーが始まると伊豆野選手は慎重な走りを披露。伊豆野選手によれば「足回りが改造できるグループ R 仕様車と違ってグループ A 仕様車は改造範囲が狭いのでジャンプも厳しい。クルマを壊さないように抑えて走りました」とのことだが、この冷静なペースコントロールがプラスに働いていたのだろう。Day - 2 では多くのマシンが脱落するサバイバルラリーが展開されるものの、伊豆野選手はノートラブルで波乱の Day - 2 を走破している。

続く 30 日の Day - 3 では「途中でスピンしてテール周りを立木にヒットさせてしまいました」と伊豆野選手が語るように SS18 で予想外のハプニングが発生。リアバンパーを破損するものの、無事にサービスへと帰還し、3 名のメカニックが完璧なリペアを実施した。

その結果、伊豆野選手は 31 日の Day - 4 でも安定した走りを披露。スタート前に語っていた言葉、「とにかく完走を目指して頑張りたい」を実践するように総合 49 位、RC4 クラス 9 位で完走を果たす。今大会はリタイヤが続出する過酷な一戦となったが、K' s FACTORY はプライベートターながら最後まで粘りの走りで完走しただけに殊勲のリザルトだと言えるだろう。



サービスパークでメンテナンス&リペア



■ユーザーの声/User' s Voice

伊豆野康平/Kohei Izuno

K' s FACTORY/ドライバー

「PIAA の LED バーライトを装着して走ったんですけど明るさは十分ですね。ラリー・フィンランドはナイトステージが設定されていませんが、リバーズ出走の SS1 以外、自分たちは（参戦クラスの関係で）最終出走ですからね。最後のステージは暗くなるので本当に助かりました。PIAA の LED バーライトは小さいけど、遠くまで照らしてくれるし、カバーエリアも広範囲。ヘッドランプでカバーできないところも照ら

してくれるので有難いです。それにHIDやハロゲンのランプポッドと違ってボンネットフードにつけていても視界の邪魔にならないのでドライビングに集中しやすい。装着したまま日中のステージも走っていたんですけど気になりませんでした」



PIAA LED Bar Light (10inch × 2)

伊豆野選手もLEDランプを高評価！

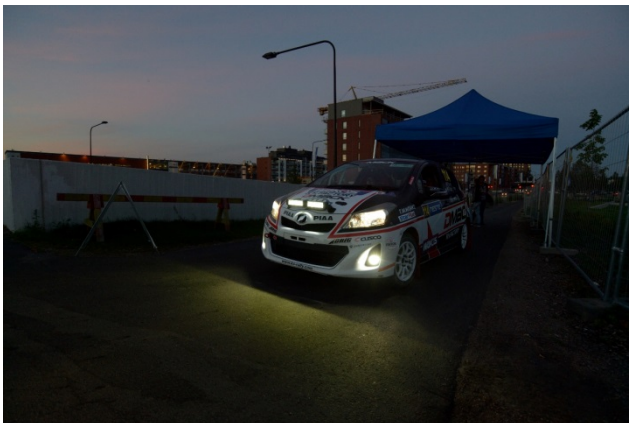
鈴木一也/Kazuya Suzuki

K's FACTORY/チーム代表

「PIAAのLEDバーライトのメリットはコンパクトなことですね。通常のランプポッドは大きくて重たいので、ランプをつけてない状態と比べると、ステージによっては1kmあたり1.5秒ぐらい遅くなるんですけど、このLEDバーライトは小さいのでペースダウンを最小限に留められると思います。それに明るさも十分ですし、取り付けも簡単。全体的にコンパクトなのでクルマに積載する場合も収納に困らないと思います。あとはHIDのランプシステムと比べるとリーズナブルになっているところもポイントですね。ランプとしての性能も十分に高いのでコストパフォーマンスは高いと思いますよ。プライベートにオススメのランプだと思います」



LEDながらリフレクターを活用した設計なので十分な明るさとキレイな配光を実現！



配光、明るさはECE規格適合品！（ドライビング配光の他、フォグ配光、中間のハイリッド配光の設定がある）

後半ゼッケンはサービsparkに戻ってきた時点でLEDバーライトが活躍する時間帯となる！

■Photo Gallery

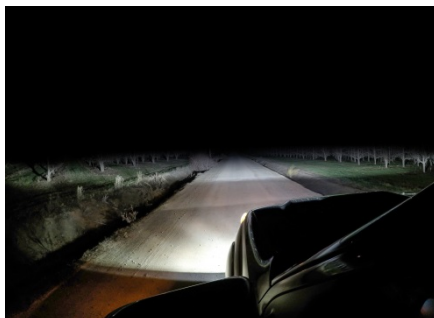
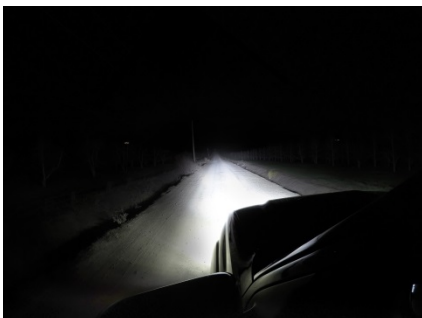


昼間のSSでもLEDバーライトはクルーの視界を妨げないので装着したままでOK!



最後のSSは（参戦クラスの関係で）最終出走なので夕暮れ時となりLEDバーライトが威力を発揮！

PIAA LED Bar Light 照射光



Driving（前方向重視）

Fog（横方向重視）

Hybrid（中間）